

# ほとけの 混和会だより

令和六年一月

東光院

仏の混和会

第170号

# 謹賀新年

本年もどうぞ

よろしくお願ひ

申し上げます

令和六年 元旦



檀信徒の皆様にあかれましてはつつがなく新春をお迎えの事とお喜び申し上げます。  
昨年、東光院の諸行事に様々な人々のご奉仕や協力を賜りました事大変有り難く謹み御礼申し上げます。

お陰を持ちまして沢山の  
人々と共にほんの少し  
かもしれませんが心と心を  
通い合わせる事が出来ま  
した。とても嬉しく共に歩む  
大きな励みと成りました。  
大変有り難いことと存じます。  
昨年は「共有・共食・共生」と  
言うテーマの元に、自然の  
恵みも心も共有し、ご接待  
とかおもてなしの心でおむす  
びやおそばを頂きました。  
美味しい物を追い求めるので

は無く、美味しく食べる方法  
を見いだす事が出来ました。  
そして共に生きる、よりどこ  
ろのようなものがほんの少し  
見えたような思いでした。  
皆様の御心大変有り難く  
改めて御礼申し上げます。

## 令和六年度の課題

### 「共によりそう」

本年度も「共有共食共生」  
この課題の元に「共に寄り添  
う」と言う言葉を添えて、  
人と人、共に理解を深めなが  
ら仏心を育んで参りたいと存  
じます。



### 「家族の崩壊」

日本古来の家  
族構成は爺さ  
んに婆さん、  
お父さんにお  
母さん、そし  
て数人のお孫  
さんが居るような大家族が  
当たり前でした。

そして先祖伝来の家を守  
り、家の伝統が継承されて、  
ご先祖様や家族に感謝の念

を捧げ、家族の健やかな成  
長を祈り、生きる事の意義  
や目的、そして共に生きる  
安心を会得しておりました。  
更に家族の優しさに抱かれ  
たお子さん達は心豊かに成  
長して行かれました。

しかし日本の経済成長と  
共に、核家族が進み、更に  
現在は孤族社会と成って様  
々な不安や迷いにさいなま  
れながら生きる社会と成っ  
てしまいました。

このような社会に於いて、  
宗教者として何をしなければ  
ならないのか、そして何が  
出来るのか、東光院と致し  
ました。

そこで本年度は他人同士  
でも家族のように寄り添う  
事が出来るように「仏心」い  
わゆる慈愛心を育み、共に  
他の幸を念じ、他の幸を喜  
びとして、「共生」共に生き  
るよりどころと成るように  
努めて参りたいと存じます。

合掌 亮観拝





本年は喪中につき新年のご挨拶は控えさせていただきます。毎年新年号では干支に纏わるお話をご紹介します。

ご存じの方も多いかと思いますが、東光院のある印旛沼周辺には昔から「龍神伝説」が数多くあり、その一つ天台宗龍角寺を始めとする龍伝説をご紹介します。

●龍神伝説 角・腹・尾

その昔、印旛沼の北側に龍女の化身が現れ、仏像を造り龍閣寺という寺院を一夜にして建立しました。時代は流れ、七三一年。全国的に干ばつに襲われ、人々は苦しんでいました。

朝廷は諸国に降雨祈禱を命じた所、下総の地に龍女が建立した寺院があると聞き、降雨祈禱の宣旨が下されました。

龍閣寺では僧侶や信徒が集まり「法華経」や「海龍王経」といった経典を誦読し、密教の修法を何日も厳修しました。すると法要に参加していた聴衆の中から長身の老翁がすくと立ち「私は印旛沼に住む小龍です。今日は有難い仏法を聞き我が身の罪根を消し去る事が出来た。」と。

翁の出現に驚いた僧侶らは「龍神の化身であるか。ならば皆が雨が降らず苦しんでいるので慈雨を降らして欲しい。」と頼みます。翁は「今年の干ばつは日照りの神と雨降りの神が人間の奢りを怒り決めた事故に龍王に雨を降らす事は禁じられている。降らせたなら怒りを買うでしょう。しかし、仏法の有難さを知ってしまった今は我が身が惜しいとは思いません。」と言いつつ姿を消しました。

すると天に昇る龍の姿が見え、その姿が雲の中へ消える。雷鳴と共に七日七晩雨が降り続け終いには稲妻の中で龍の身体は三つに裂かれ落ちてきました。雨を降らせた龍への感謝と供養の意を込め頭の落ちた龍閣寺は「龍角寺」。腹が落ちた延命院は「龍腹寺」。尾が落ちた大寺は「龍尾寺」と寺号を改めました。

その中で栄町にある龍角寺では地元の春の桜まつりの際に小龍の頭の骨を特別公開されているようです。暖かくなりましたら辰年に龍神様に手を合わせに行くのもどうでしょうか。※各寺の縁起によって若干の違いが有るため、今回は龍角寺縁起を参照しています。



本年度も 持続可能な生き方を求めて参ります

山と身と心  
これは、私の師匠である  
吉山亮薫様の書で有ります。  
「幽鳥弄真如」 ゆうちょうしんによをろうす。と読みます。  
どこからか聞こえてくる鳥の聲が真理をもてあそんでいると言っておられるのです。  
「良いですね、……」

私達の社会では異常気象のせとぎわでも、尚競争にあえぎながら生きて行かなければ成りません。真理とはほど遠い社会に生きております。少しでも自然と共に生きる、この真の生き方が見いだす事が出来るよう本年度も務めて参りたいと存じます。亮観拝



岩井植木様、境内の植木の管理、毎年のご奉仕心より御礼申し上げます。

難様う々なご奉仕有たり

十二月十七日(日曜)

境内の大掃除を行いました。今年約六十名の参加を頂きました。



飴を皆さんに配つて下さる人。手作りのお菓子を 持つて来て下さる人。そして

お蕎麦を打つてご接待を下さる人。沢山の人の優しさを頂きました。皆様の優しさ心より御礼申し上げます。合掌 亮観拝